



豊中市、ダスキンと3者で災害時などにおける衛生管理体制強化の協定を締結

11月16日に、豊中市とダスキン（近畿地域本部）、市の3者で災害時などに衛生管理強化を図り、市民などの生命・健康維持を目的とした「災害等発生時における衛生対策のためのレンタル資機材等及び役員サービスに関する協定」を締結しました。災害

時などには、避難所での衛生関連用品の調達やトイレなどの施設内の清掃などの提供を受けます。また、各種感染症対策物品の調達や、各種訓練・啓発活動での連携を図る予定です。



長内豊中市市長（左）、竹内ダスキン訪販グループ営業本部近畿地域本部長（中）、後藤市長

乳幼児への新型コロナウイルスワクチン接種開始

市では10月31日から、生後6か月〜4歳への新型コロナウイルスワクチンの接種が開始されました。接種は3回に分けて接

種され、2回目と3回目が1回目接種から3週間経過後、2回目接種から8週間経過後の接種となります。接種を希

望する人は、かかりつけ医に相談してください。

EXPO TRAIN 2025

大阪モノレール号にポスターを掲出

大阪・関西万博に向けて機運を高めるため、11月7日から大阪モノレールが「いのち輝く未来社会のデザイン」のラッピング列車を運行開始しました。市も車内にポスター

を掲出し、盛り上げていきます。ラッピング車両に乗車した際には、ぜひ確認してみてください。



市長コラム No.88

こもれび通り

後藤圭二

空間の美



コラムの音声版はこちら

私の字は、いわゆる「丸文字」です。大学の同級生は「後藤の字、独特で好きやわあ」と言ってくれていましたが、担当教授には「これ卒業論文だよ？真面目に書きなさい」と言われていました。

当時出現したワープロは、そんな私を大いに救ってくれました。同じ内容でも活字で記すと真実味が増します。以来、文字を書く＝キーボードに向かう、となり、一層手書きの機会が減ってしまいました。

しかし、この立場、頻りに芳名録を前にします。「市長なら筆ペンでスラスラ書くに違いない」というイメージ、私に限っては違うのです…。

そんな私が毎年「生きがい書道文化会」に出展し

ています。毛筆に慣れないわが右手でも、先生は「市長は筋がいい！素晴らしい！」とほめてくださいます。続けて「この押さえと次の力強さを出せたらさらに良くなります！」と。そのYes andイエス アンド話法に乗り、書いては褒められ、うれしくなってまた書いて。

そのうち無心になり、気付くとこの私が筆で文字を、それも縦に書いているではありませんか。完成後、先生が一言「黒い墨を白い紙に入れて余白を表現するのです。余白は要白なのですよ」と。書くのではなく表現する。

それはもう哲学であり生き方。ああ、もっと早くから始めておけばよかった…。